

一四一〇番

世の中は まこと二代は 行かざらし 過ぎにし
妹に 逢はなく思へば

一四一一番

幸ひの いかなる人か 黒髪の 白くなるまで
妹が声を聞く

一四一二番

我が背子を いづち行かめと さき竹の そがひ
に寝しく 今し悔しも

一四一三番

庭つ鳥 鶏の垂り尾の 乱れ尾の 長き心も 思
ほえぬかも